

高等部 まとめ

1 単一障がい学級（1組） **音楽Ⅰ、Ⅱ「自分の押し曲を紹介しよう」**（授業者2名+担任団）

(1) 事前研究会

- ①音楽にかかわる打ち合わせ：生徒の実態把握（興味関心、特性 など）／個別の課題設定／授業のルーティン化／題材を長期ではなく、見通しが持ちやすい時間設定に
- ②授業研究の内容、日程について：「鑑賞」を題材に／9/30(火) 1時間目に本時を設定
- ③音楽の「鑑賞」における実態について：音楽の要素や音楽の特徴を表現する言葉を知らない様子／生徒3名ともそれぞれ特性がある
- ④手立てについて：教師がモデルを示す／音楽の要素をチェックシートに／見通しが持てるような単元計画の提示
- ⑤指導案検討



- (2) 本時の目標：リズムや旋律に注目して聴き、その曲の良さに気付いたり、聞き取ったことを根拠にしてその曲の良さを言葉で表現したりすることができる。
- (3) 事後研究会：生徒のつぶやきを教師が拾って、他の生徒がその良さに同感し、言葉で表現することにつながっていた／実態把握に応じた支援がなされていた／前半は教師と生徒、後半は生徒同士の意見交換ができていた

2 重複障がい学級（2組） **情報「ロボットプログラミング選手権に出場しよう」**（授業者+2組担任団）

(1) 事前研究会

- ①学習指導要領の知的障害者教科等編「情報」、中学部「職業」についても目標と内容を確認
- ②「情報」（ロボプロ）における生徒5名の実態について
感覚的に理解して取り組める生徒から1対1で支援が必要な生徒まで実態に幅がある／個別に目標を設定し、1時間の中で「ここまでできた」をわかりやすくする
- ③指導案検討 ※ICT活用推進報告書の書式に基づく

(2) 本時の目標：ソフトウェアの使い方が分かり、スクラッチのプログラミングを活用してプロロを走らせ、ゴールさせることができる。



(3) 事後研究会

- ④自評：今年度から「情報」に取り組み、本時はロボプロへの出場に向けた授業／本時はプロロ（ロボット）の動かし方について／授業参加の回数・学習内容の理解に、ばらつきがある5名／緊張した生徒もいたが、目標に向かって取り組めた／Google formを使い、選択式の振り返りにすることで、書字が難しい生徒、理解に時間がかかる生徒にとっても取り組みやすくなった
- ⑤特総研・織田先生にお聞きしたいこと：改めて（知的）高等部の「情報」の目標・内容を読むと、本時の生徒の実態としてすごく難しいと感じたため「情報」での目標設定について教えてほしい／プログラミング教育を授業の目標にするには、どう授業に組み込めばいいのか
- ⑥織田先生より指導・助言：今回の授業の大きな目標は、「ロボプロ選手権に出場しよう」で生徒たちにもわかりやすく良かった／ロボット同士の対戦のさせ方、床のゆがみの捉え方、摩擦があるところの進め方、など画面上のプログラミングだけでなく、現実世界でのロボットの動き方も考えることで課題解決の力を育てる／情報技術を使って課題解決をする、そのために、どのように情報技術を使うか／プログラミングの仕方を覚えることではなくプログラミングの仕方をどう使うかを学ぶこと／壁向きのパソコンとプロロを実際に動かす床面の間にホワイトボードを入れることで、画面上だけで理解が難しい生徒には、入力したものがどう動くかをホワイトボード上で動かしてみてシミュレーションを。思考を外在化させてプログラムがりが

いしやすくなる／アナログな動きがわかりやすいことも多々ある／ゴールをライン（線）パネル（壁）にすることで到達したかどうかを生徒自身がわかりやすくなる／生徒に迷路を考えさせるのもいい



3 重複障がい学級（2組） **家庭「私たちの衣生活」**（授業者＋2組担任団）

(1) 事前研究会

学習指導要領の読み込み／実生活での経験や知識を踏まえた生徒の実態把握、目標設定／本時の内容と目標設定、手立てについて→汚れの種類？汚れの落とし方？水温？洗い方？／指導案検討

(2) 本時の目標

手順を理解して手洗いをしたり、部分洗いを通して、汚れや水の温度、よごれの放置時間によって、落としやすさが違うことを理解したりすることができる。

(3) 事後研究会

④自評：経験が少ない生徒たちに、いろんな洗い方を体験から取り組ませてみたいと考えた／汚れの種類、落とし方、水温など、どこに的を絞るかすごく迷った／実生活の知識と掛け合わせて授業を作っていきたい。

⑤協議：前時の反省により、洗い終わりを回数で示したことで終わることができていた／様々取り組むことができる内容だからこそ、評価の軸になるものが明確に必要な／教師が実演することで、生徒たちが取り組みやすくなるようだ／生徒たちが自分で考えられるような場面を設定してあげたい／T2の役割の難しさを感じた／生徒たちで授業を進められそう

⑥校長の指導・助言：生活段階を踏まえて高等部生としての目標設定の仕方を考えてほしい。

1対1になりがちだが、探究的、協同的な学びをどう取り組むか。評価の仕方として、生徒からアウトプットできるか、客観的に評価ができるかがポイント。

8/25(月)	学研部より進め方の説明 ○2学期は各学部で、根拠のある目標設定の仕方での授業づくりをしていく。 ○高2組「情報」について、外部講師から授業参観・助言をいただく。 ○中堅研、5年研該当教員の授業づくりにも、みんなで取り組んでいく。	
	1組 音楽（授業者＋担任団） 事前研究会①	2組 情報（授業者＋2・3組担任団＋担外） 情報 事前研究会①
9/11(木)	1組 音楽（授業者＋担任団） 音楽 事前研究会②③④	2組 情報（授業者＋2・3組担任団＋担外） 情報 事前研究会②
10/8(水)	5時間目 2組A・情報 「ロボットプログラミング大会に出場しよう」（公開） 事後研究会③④⑤	
10/22(水)	2組 家庭（授業者＋担任団） 事後研究会④⑤⑥	（1組3組＋担外） ○授業の中でのICT活用について
	○自立活動の流れ図の点検（後期の目標の確認）※各学級担任＋担外で	
	○個別の指導計画、目標設定について：授業別（職・家、音楽、体育、自立）で確認	
11/6(木)	Co-MaMeの使い方（講義・演習） ※3～4人のグループに分けて演習を実施。 生徒A、B、C、D：アセスメントシート→支援のイメージ図→整理シートの作成。	
11/20(木)	Co-MaMeの使い方（演習） ※3～4人ぐらいのグループに分けて演習を実施。 生徒E、F：3種類のシートの作成 生徒A：Co-MaMeを活用した実践シートの作成。	
1/8(木)	まとめ	

